

## 平成 19 年度 秋期 システムアナリスト 午後Ⅱ 出題趣旨

この出題趣旨は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

### 問 1

#### 出題趣旨：

様々なシステムアーキテクチャが混在している情報システムでは、“開発・運用・保守のすべての局面で複数の技術に対応する必要がある”，“セキュリティ管理が煩雑である”，“新技術への適応が難しい”などの問題を抱えていることも多い。システムアナリストは，そのような問題を解決するために基本方針としてのシステムアーキテクチャを検討し，システム化全体計画に反映させる。

本問は，検討したシステムアーキテクチャがどのようなものであったか，また，どのような観点から現状と対比し，総合的に検討したかについて，重要と考えた点とともに，具体的に論述することを求めている。論述を通じて，システムアナリストに必要なシステムアーキテクチャの方針策定に関する能力や経験，洞察力などを評価する。

#### 講評：

問 1（システム化全体計画におけるシステムアーキテクチャについて）は，選択率が 3 問中で最も高く，ハードウェア，OS，DBMS，アプリケーション構造，開発方式，システム連携方式の変更など多岐にわたって論述がされていた。本問では，総合的に現状と対比した論述を期待したが，設計したシステムアーキテクチャの良さだけを論述しているものが多かった。

-----\*

### 問 2

#### 出題趣旨：

昨今，品質面や安全面のリスク統制方針に基づき，情報技術を導入してリスクに対応することが多くなっており，導入する情報技術やシステム化範囲によって投資額が大きく左右される。システムアナリストはリスク統制方針に基づき業務プロセスを設計し，情報技術活用の方針及びシステム化範囲を決めて情報システム構想を策定しなければならない。

本問は，リスク統制方針に基づく情報システム構想の策定について具体的に論述することを求めている。論述を通じて，システムアナリストに必要なリスクを統制する業務プロセスの設計能力，情報技術活用の方針の策定能力，有効なシステム化範囲を決定する能力，情報システム構想を策定する能力などを評価する。

#### 講評：

問 2（リスクに対応する統制方針に基づいた情報システム構想の策定について）は，リスク統制方針に基づく情報システム構想の策定について比較的よく論述されたものが多かった。本問では，重要と考えて検討した点について，リスクが発生した場合の影響度や損害予想額，情報技術活用への投資額，運用体制などの実現可能性を論述することを期待したが，策定したシステム構想の解説に終始している論述も散見された。

-----\*

### 問 3

#### 出題趣旨：

既に多くの組織で導入されている ERP，コールセンタ，SFA などのシステムに加え，前後して経

営意思決定を支援するための情報システムが導入されている。これは、単なる業務の自動化を目的とした情報システム化の構想策定とは異なる。システムアナリストは意思決定に必要な情報、その情報源及びその提供方法を検討するとともに、経営戦略に基づく情報戦略を立案し、情報システム化計画を策定する役割を期待されている。

本問は、経営意思決定を支援するための情報システム構想の策定について具体的に論述することを求めている。論述を通じて、システムアナリストに必要な経営の視点からの構想策定能力、提案企画能力などを評価する。

**講評：**

問3（経営意思決定を支援するための情報システム構想の策定について）は、経営意思決定を支援するための情報システムにかかわる経験をしていることがうかがえる論述が多かった。しかし、多くの論述が、どのような意思決定が必要だったのかについては触れずに、依頼された情報提供の仕組みの検討を中心に論じていた。また、経営者が合理的な意思決定を行えるように工夫した点を述べている論述は少なかった。

注：この出題趣旨に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。